

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 12 月 23 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673100113
法人名	医療法人 木村外科内科
事業所名	グループホーム きむら
所在地	鹿児島県 鹿児島市 石谷町 2105-3 (電話) 099-278-5511
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和 2 年 12 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・施設は高台に位置し、遠くに矢筈岳を望み周りの山々学校団地を見下ろし景観がよく四季を感じながら入居者の方々は四季を感じながら、のんびりと生活されています。
- ・建物が平屋建てで、すぐに外へ出られるので散歩やお茶会など天気のいい日は日光浴が出来気分転換を図れる。
- ・同敷地内に24時間緊急対応の医療機関が隣接しており入居者様の個別の医療ニーズや急変等にも対応している為ご本人、ご家族も安心している。
- ・関係機関、民生委員、ボランティアの方々と協力を頂き地域との交流が出来ている。
- ・地域に根差した施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、平成16年に法人母体の医療機関や有料老人ホーム、小規模多機能ホームに隣接して設置されており、周辺にはスーパーマーケットや個人商店、個人住宅等が立ち並んでいる。平屋構造のホームは日当たりが良く、眼下に団地や高校、遠くには矢筈岳が望めるなど風光明媚で静かな環境である。隣接の系列事業所とは情報を共有し協力体制を築いて、夏祭りや防災訓練、職員研修を合同で開催しているが、新型コロナ感染に配慮して現在は利用者間の交流は自粛している。

地域密着型事業所として地域との交流に積極的に取り組んでおり、家族や友人知人の来訪や地域のイベントへの参加、ボランティア(慰問や窓の清掃、樹木の手入れ等)の受け入れ、散歩や外出時の会話など良好な交流が図られて利用者の楽しみとなっているが、新型コロナウイルスの感染予防のため、現在は自粛している。

管理者及び職員は4項目の理念に沿って、利用者が生きがいと笑顔に満ちた平穏な暮らしとなるような支援に日々努めている。日頃から利用者及び家族の思いや要望の把握に努め、利用者主体のケアに取り組んでおり厚い信頼関係が築かれている。また、年間の外出や行事を計画し、利用者の意向や体調等に配慮しながら取り組んでいる。新型コロナウイルス感染の影響で、ホームの外出計画や地域のイベントの多くが中止になっている中で、利用者のリフレッシュを図るために3密を避ける工夫を行って桜やコスモスの花見を実施して喜ばれている。

管理者は、職員と気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築しており、日頃の業務の中やミーティング時に意見や要望の把握に努め、個人的な事情にも配慮しながらサービスの向上や働きやすい職場環境の整備を、法人代表とも協議しながら取り組んでいる。ケアに関する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップに日頃から努めている。資格取得や外部研修時の受講料等は法人の助成制度があり給与体系も整備されて、職員の就労意欲向上に繋がっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、入社時に必ず理念を理解してもらうよう、オリエンテーションの中で説明をしている。基本理念については、和室・玄関・トイレ等に掲出し、意識付けを行っている。	ホームの理念を玄関や和室、トイレ等に掲示し、職員のネームの裏面にも記載して共有を図り、申し送りやミーティング等でケアの振り返りや意見交換を行って理念に添った支援の実践に取り組んでいる。新入職員には、オリエンテーション時の研修で理念の理解を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、地域の公民館長や地域の方々と連携して、地域行事・運営推進会議への参加・地域周辺への挨拶まわり・ボランティア等の受入を行っています。コロナ禍により、地域敬老会・地域行事の参加等、控えております。	自治会に加入し地域の情報を把握して敬老会や文化祭等へ参加している。日頃の散歩や買い物時には地域の人と会話を楽しみ、野菜の差し入れ、家族・友人の面会、施設見学、ボランティア等を積極的に受け入れて交流に努めているが、現在は、新型コロナウイルスの感染予防のため家族の面会以外は自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	例年、地域の方々や入居者、ご家族、職員の交流を深めるために運営推進会議、食事会を開催しているが、本年度はコロナ禍により、運営推進会議の開催自体を控えております。そのため、ご家族につきましては、グループホームだよりにて情報発信をしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、運営推進会議の開催は控えておりますが、スタッフ会議で、取組状況についての評価・反省・周知を行ってサービス機能向上に努めております。	会議は定期的（年6回）に開催し、利用者、家族、民生委員、自治会長、行政職員等が出席して、ホームの現況や利用者の状況、ヒヤリハットや防災に関する報告を行い、委員からはケアに関する質問や地域の情報等が出されているが、本年度は新型コロナウイルスの感染予防のため一堂に会するのを控え、資料の提示で意見をもらい改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍により、介護相談員等への連携については控えておりますが、入居者様の生活支援状況について、の報告・相談等は、必要に応じて電話により、対応しております。報告・相談等の連絡に努めて業務品質向上を目指しています。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、ホームの運営や生活保護受給中の利用者に係る相談等を電話や窓口に出向いて行い、指導や助言をもらうなど、日頃から協力関係を築いている。行政主催の会合や研修会にも可能な限り出席してサービスの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、勉強会等で議題として取り上げて意識向上を図っている（職員トイレに掲示）。また、身体拘束委員会においては、身体拘束についての理解を深める周知等を行っている。そして、玄関・非常口の施錠について、日中帯は行っていない。	身体拘束や高齢者虐待、権利の擁護については、運営規定や利用契約書等に明記し排除宣言も行っており、ウェブも活用しての研修やケアの振り返り、意見交換で認識を共有している。また、適正化を目的とした委員会も毎月開催して自由な暮らしの支援に取り組んでおり、昼間は施錠していない。不適切な言葉遣いには、その都度、注意し合う等、日頃から改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、職員ミーティングで、法律を含めた勉強会を行い、施設内における虐待を根絶するように意識統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度等についてはミーティング等で勉強会を実施（日常生活自立支援、成年後見人制度）して理解を深めている。対応が必要な時には、管理者指示のもと、関係各所との連絡を密にして、適確な対応ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム見学や入居相談時、また契約締結前に、契約書・重要事項等を十分に説明して入居を検討して頂き、懇切、丁寧な説明を行った上で同意を得ている。解約・改定の際には、事前に書面郵送・電話を行い、ご理解を頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様にご本人の思いを代弁して頂けるように、電話による要望等の聞き取りを行い、要望等があった場合には早急に改善策を検討している。また、苦情相談窓口・第三者委員の名簿をご家族あてに郵送しており、掲載して外部への相談先をご案内している。	利用者の意向を日頃の会話や仕草、独自のサイン等で理解し、家族からの意見、要望は面会や行事、家族会、運営推進会議、電話等で聞き取りに努め意見箱も設置している。現在、コロナウイルスの感染予防に配慮して会議の開催は自粛し、電話やメール、お便り等で現状を伝えながら把握して改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催の職員ミーティングの中で、職員それぞれの業務内容やケア方法等の意見交換・情報共有を行い、業務サービスにおける品質向上を図っている。また、欠席者に対しては、会議録・申し送りノートを活用して情報共有を実施している。	代表者及び管理者は、日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、業務の中や申し送り、毎月のミーティング時に意見、要望等を聞き取り、必要に応じて個人面談も実施して改善に取り組んでいる。スキルアップを図る研修の実施や資格取得へのバックアップ、勤務シフトには個人的事情も配慮する等、働きやすい職場づくりに努めており、法人本部による、福利厚生や外部研修の受講料の助成制度等は職員の就労意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務環境における聞き取りを行い、能力に合わせた勤務指定、介護・子育て世代に合わせた勤務体系を組んで、職場環境改善に取り組んでいる。また、突発時の勤務変更も柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時におけるオリエンテーション記録報告書の作成、行事・全体会議等の報告書の作成を依頼して、業務内容に精通するように指導している。また、マニュアル等を活用して、経験の浅い職員でも業務に対応できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年、グループホーム協会や地区の勉強会に参加しているが、コロナ禍により他介護施設への訪問等も自粛している。他施設等の情報収集については、書面・インターネットによる情報を取得して、サービス品質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が入居するまでにご家族からの面談を多く行って、ご家族の思いや考え方に対する聞き取りを行い、ご本人が希望する生活を送れるような助言を行い、ご本人が安心して生活できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の入居後の生活についての説明、グループホームの理念、重要事項等を説明し、ご家族の要望等の情報収集を行う。また、ご家族との良好な関係を維持するために、随時ご本人の生活状況を連絡して、良好な関係性が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応が必要な入居者に対しては、医療・各専門職・ご家族等からの情報収集を行っておき、支援内容を明確化して緊急時に適切な対応を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間行事（お正月、ちまき作り、焼き芋、野菜の栽培等）は、入居者の方々と職員が、飾り付けや作り方を教え合いながら行っている。また、入居者様の個性や能力に合わせた役割分担を行い、出来ることをお願いして、楽しい生活が送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍による面会制限のため、近況等は電話にて状況報告を行っている。入居者様のご希望があれば、ご家族への電話による対話、手紙作成の補助を行い、ご家族との関係が疎遠にならないように支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により関係継続が厳しい状況にあるが、ご本人と関係が深い方々には、電話やホーム便りを郵送して近況、状況の案内をするとともに、電話や手紙を頂けるように支援をしている。	入所時の聞き取りや日頃の利用者との会話、家族からの情報等で利用者毎の馴染みを把握し、体調に配慮しながら散歩や買い物、通院、外食、地域行事の参加、一時帰宅等を家族と協力して取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染予防のため、現在、外出は自粛し、ガラス越しの面会やお便り、電話等の工夫で関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間で入居者同士が自由に行き来したり、レクリエーション・各種行事も合同で行って、入居者同士の触れ合いの機会を多く作り、良好な関係が維持できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も定期的な訪問活動を行い、ご本人やご家族とも良好な関係を継続できるようにしている。訪問時のご家族との面談には感染防止策を行い、相談内容については持ち帰って確実な回答をするなどの支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々の趣味・趣向を把握して、興味を持たれる話を引き出し、その聞き取り内容を職員間でも情報共有しながら、ホーム生活で希望や意欲を持って生活できるよう支援している。	日頃の会話や独自のサイン等で利用者の思いを把握し、生きがいのある利用者主体の暮らしとなるよう家族の意向も伺いながら取り組んでいる。余暇時間も利用者の意向を尊重して、趣味（新聞の転記、プリントの計算、パズル他）や炊事、洗濯物たたみ等の取り組みを残存機能や体調等に配慮しながら個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・主治医・担当ケアマネジャー等の聞き取り（ご本人の希望に沿った生活についての情報収集）を行い、その情報をもとに、入居者の行動や言動に対する理解を深め、職員間における情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方々の生活について、その方に合った日課・役割・運動などの声かけをしている。またカンファレンスで、できること・できなくなったことや精神面についても観察しながら、その方に適するケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望内容の聞き取りを実施して、職員の意見交換を行い、また必要時にはカンファレンスを実施して、その方向性や情報共有を図ってモニタリング・介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を把握し、主治医の指示やモニタリング、カンファレンス等での職員の意見を基に、残存機能や習慣等にも配慮した利用者主体の計画を作成している。ケアの実施状況は、申し送りや介護日誌等で共有しており、利用者の状態変化時には実態に即した介護計画に修正して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の一日の様子や出来事、状態等については、個別の生活記録簿を作成して確実な記録を行っている。また、介助に必要な情報は、職員間で共有して支援経過の記入や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のリハビリ支援や年間行事・誕生会の参加や、ご家族が県外在住の方に対しては、必要品の買い物代行、他科受診の支援など、ご家族の状況に合わせた支援を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員や公民館・地域の方々の支援を得ながら、状況によってはコロナ感染防止策を講じて地域行事への参加活動を行っている。また、まちづくり協議会への加入もしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	木村外科内科と医療連携の契約を行っており、医師の訪問診療や状態変化時の相談・助言を受けている。また、必要時には他科受診やご本人・ご家族の要望に合わせて主治医との連携を図り、適切な医療支援を行っている。	本人や家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆どの利用者が法人母体の協力医療機関を主治医としている。主治医による訪問診療が定期的に実施され、他科受診は家族と連携して実施している。看護師が主体的に日頃の健康管理を徹底し、協力医療機関との連携も密に行われて利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時医療機関との連携を行い、介護職員は入居者の方が適切な看護が受けられるように、主治医、医療連携看護師に状況報告や医療面についての相談を行い、また対応方法や専門的な指導を受けながらケアに従事している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の状態把握のために、ご本人・ご家族との面談（希望、要望等の聴取）や主治医（面談に同行）や看護師、他の専門家の意見を仰ぎながら、退院後の生活準備を職員とともにし、その後の医療や他専門家のサポートを受けられる体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームにおける重度化や終末期の対応については、ご本人やご家族の要望に合わせて可能であることを説明している。入居時・担当者会議時、状態変化等対応の説明をしている。	重度化や終末期の対応については利用契約書に明記しており、入所時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者の状態変化に応じて随時家族の意向を確認し、重度化した時点で、主治医や職員、関係者、家族は十分な話し合いを行って、可能な限り希望に添った支援に取り組んでいるが、終末期には殆どが医療機関に移行している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応は、緊急時対応マニュアルに沿って対処しており、医療機関との連携体制も確立している。スタッフ会議の時には、緊急時の迅速な対応についての研修を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て避難訓練（昼・夜想定）や他事業所と連携して避難経路の確認、消化器の使用方法、火災通報装置の使用方法の指導がある。また、非常災害マニュアルを作成して、いつでも職員が閲覧できるようにし、非常時の対応をスタッフ会議で周知してマニュアルの把握等を行っている。	年2回夜間発生も想定した火災及び台風時の防災訓練を法人母体の医療機関や同法人の小規模多機能ホーム等と合同で実施し、避難や通報、消火器等の取扱いも研修している。本年9月の台風接近時には隣接のディケアに避難し停電の中でのケアの難しさを体験しており、振り返りや意見交換等で災害への認識を共有している。隣接の事業所や近隣の住民との協力体制も構築している。スプリンクラーや自動通報装置、自家発電が設置され、災害時の食糧や飲料水等を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を尊重しながらプライバシーに配慮した声かけを実施している。また、倫理規定や権利擁護についても全体ミーティング等で定期的に研修を行い、常に人権尊重を意識した対応を心がけている。	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いよう言葉かけや対応には、常にプライバシーに配慮し敬愛の気持で支援に努めており、計画的な研修の実施やケアの振り返り等で認識を共有している。利用者の心身の状態や習慣等にも配慮しながら、人格や思いを尊重したケアに取り組んでおり、居室、浴室、トイレ等はプライバシーが確保された構造で個人記録や面会票等も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においての希望・要望の聞き取りを行い、ご本人の意思確認を把握しながら、ご自分のペースで行動・実践ができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前に自宅での暮らしやご本人・ご家族からの聞き取りを行い、生活習慣を把握して、ご本人のペースで生活できるように支援を実施している。入居後はこれまでの生活パターンを出来るだけ崩さないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご本人が自宅で使用されていた物や好きな衣類をご家族に準備して頂き、着替えの介助も行っている。外出・行事・誕生日は、ご本人やご家族のお気に召す衣類を着用して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養指導時に管理栄養士と相談して、季節に合わせたメニューの打ち合わせを行い、ご本人の食べる能力や状態に合わせた食事形態(キザミ食・ミキサー食)に対応して、楽しい食事の時間を過ごせるように支援している。	形態、栄養バランス、季節感、嗜好、代替品等に配慮したメニューを法人の管理栄養士が作成し、副食は法人母体の医療機関から届けられている。利用者も一緒に楽しみながら下膳やテーブル拭き等を行ない、行事食や誕生日の手作りのケーキやおやつ、家族との会食、外食、弁当持参の外出など、食事が楽しみなものになるよう工夫しているが、感染症予防のため外食等は現在は中止している。利用者毎の食事や水分の摂取量を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床後・10時・15時・食事中・入浴後に、またご本人が希望される時や健康状態に合わせて水分摂取を促している。栄養バランスの保持については、主治医・管理栄養士の指導により健康状態を維持できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行ってできる方・一部介助の方・全介助の方がおり、個々の口腔状態や嚥下状態に合わせて、各人が清潔な口腔状態を維持できるように介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ利用ができる方への対応は、羞恥心に配慮しながら声かけを行い、トイレ誘導・排泄確認・後始末等、身体状態を確認して、気持ちよく利用できるように支援し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。	利用者の排泄パターンを排泄チェック表で把握し、習慣にも配慮しながら昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。心身の状態に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、おむつやパットの使用量が減少するなどの改善が見られている。便秘の予防に食物繊維や乳製品、水分等の摂取に配慮し、必要に応じて主治医にも相談して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目標にして、水分補給・食事・マッサージ・運動等を工夫しながら排泄を促している。また、医療機関との連携体制により、便秘傾向の方は内服調整で排便のコントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	気持ち良く入浴ができるように、また、プライバシーも考慮して個別に入浴介助を行っている。汚染等により体が汚れた場合には、直ぐに入浴できるように支援している。	週3～4回の入浴を基本としているが、排泄時の汚染等には、その都度、清拭やシャワー浴で清潔にしている。予定外の入浴希望にも柔軟に対応し、好みの温度や時間、習慣、同性介助等に配慮して個浴でゆっくり楽しんでもらっており、入浴後は皮膚疾患の手当や水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には、無理強いしないで、時間の変更や声かけ等を工夫して意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅時等の生活習慣を考慮して、昼寝が必要な方には休息を促している。また、就寝時間についても、ご本人のペースに合わせて就寝を促し、就寝中は巡視を行って、安心して入眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護師・薬剤師からの服薬助言を頂き、個別の服薬ファイルで服薬管理を行い、服薬介助・移動・保管等も2名体制で行い、処方の事前準備も3回の確認作業で確実な管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から生活習慣・趣味等を聞き取り、個性に合わせたホーム内での役割(洗濯物たたみ、計算問題、クロスワードパズル等)を行って頂き、やりがいや楽しみを持たせて気分転換ができるように支援してる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム行事や法行事、他科受診、外出・外泊など、ご本人の意向を確認しながら外出する機会を設けているが、コロナ禍により外出は制限している。また、地域行事においても本年度は参加自粛をしている。	心身の状態や天候等に配慮しながら周辺の散歩や小規模多機能ホームの利用者との談笑、墓参や一時帰宅、美容室での整髪、外食等を家族の協力を得ながら取り組み、また、季節の花見、ドライブ、地域のイベントの見学なども計画的に実施している。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、殆どの外出は控えているが、3密に配慮しながら桜やコスモスの花見の外出を実施して利用者のリフレッシュを図り、好評だった。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は1名いるが、買い物等で使用はしない。ご家族からの依頼で金銭のお預かりをしており、必要物品の購入支援を行っている。預かった金銭は金銭出納帳を作成して管理し、金銭の出し入れは2名体制で実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	コロナ禍による面会制限の中、ご家族とのコミュニケーションツールの一つとして、どなたでも電話ができるように対応している。手紙を書く方に対しては、文面作成の推敲等の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた居室・ロビー・リビングの飾り付けを行い、空調環境を整えて、共同生活や個人の趣味に合わせた環境作りに配慮している。ご家族からのお花の提供やホーム前の花壇も、季節の花を定期的に植え替えて季節感を感じ取れるように配慮している。	廊下や玄関、リビング等の共有スペースは、明るく開放感に満ちてクリスマスツリーや活花、利用者の作品、絵画等が飾られ、台所からは調理の音や匂いが伝わるなど、家庭的で和やかな雰囲気である。リビングにはテーブルセットやテレビ等が利用者の利便性に配慮して設置されており、周囲の住宅や高等学校、矢筈岳等が望める。清掃や空調、衛生管理等も徹底しており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穏に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞を読んだり、テレビやラジオの視聴など、入居者の方が思い思いの時間を過ごせるように配慮している。また、個人の居場所も要望を伺って、できる範囲内で対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自宅で使用していた物を置いたり、ご家族の写真や個人の作品などを置いて、自宅との違和感を感じさせないように配慮している。また、より良い環境改善のために、スタッフ会議内で協議を行っている。	フローリングの居室は腰高窓で明るく余裕のある広さで、エアコン、ベッド、タンス等が備えられ、利用者の状況を考慮しながらベッドの高さや場所を調整している。利用者の意向を確認しながら整頓や清掃等を支援し、正月には自分でつけた花を飾る等、家庭同様に快適な生活となるように努めている。利用者は愛着のある小物や家族写真、使い慣れた寝具、テレビ等を持ち込み、また、自分の作品や誕生祝いの色紙等も飾って居心地の良い居室が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、車椅子も自由に自走できる広さにあり、自力歩行の方も手すりを利用している。居室やトイレの場所は、プレートを作成して認識しやすく、自分のペースで過ごせるように声かけを行っている。。歩行不安定な方は、動線を確保して転倒予防に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない